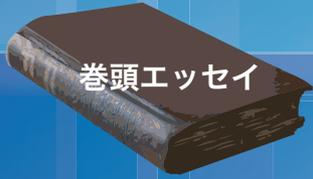




# AGULI

- \* 巻頭エッセイ 書き込み考 内田 達也 P. 2
- \* 特集 卒論・レポート必勝法 Part6
  - 「地図」を描く 齊藤 弘平 P. 3
  - 急がば回れ 坂上 裕子 P. 4
  - フットワークは軽く、かつ着実に 元山 齊 P. 5
  - プランを立てよう！ 酒巻 修也 P. 6
- \* 学習支援スペースの紹介
  - 〔青山〕アカデミックライティングセンター開設 P. 7
  - 〔相模原〕物理・数理お助け部屋 P. 7
- \* 館内オリエンテーリング企画
  - 読書の秋！大学図書館ファミリーを探そう！ P. 8
- \* 本を選ぶ・リサイクルブックフェア P. 8



## 書き込み考

国際政治経済学部長 内田 達也

UCHIDA Tatsuya

本への書き込みやマーキングのスタイルは人さまごまだ。鉛筆を使う人、色鉛筆を使う人、ボールペンを使う人、マーカーを使う人、それらのコンビネーションの人、書き込みはしないけどページの角を折る人、絶対綺麗なままを保持する人。同じ人でも読む本の種類によっても違うかもしれない。私は自分の専門である経済学の本であれば、鉛筆で書き込むスタイルだが、小説や手軽な新書であればページの角を折るスタイルである。専門書には黄色いマーカーも使うことがあるが、裏写りが気になる場合は黄色の色鉛筆を使ったりもする。

学生の時分、専門書やテキストを少しでも安く手に入れようとして古書店を廻ることがしばしばあった。値段は新品に近い綺麗なものほど高く、焼け、カビや、書き込みのあるものは安い。自由な市場では、価格はものの価値を反映するものだ。しかし、書き込みが全て悪いわけではない。経済学の本の中には、数式の展開が省略されているものが多く、初学者にはこれが辛い。だから、途中式を書き込んでくれていたりすると、嬉しいわけである。

図書館の本は書き込み禁止で、図書館員が書き込みを見つけて消しゴムで消しているところを見たことがあるけれど、ちょっともったいない気がする。図書館の本への書き込みは、その図書館を利用するコミュニティの文化のようにも思えるからだ。大事なところに線を引いたり、余白にチェックマークを書き入れたり、数式の展開を書き入れ

たり、閃きをメモしたり。それを次の人が読むこと、書き足していくことは、コミュニケーションの一つとも言える。

敬愛する先生からいただいた本の中に、その先生の書き込みを見つけると、その先生がここで何を考えたのだろうと考えを巡らし、時間を越えて交流したような気持ちになる。それは嬉しい瞬間だし、場合によってはその箇所から学問的な洞察を得ることができるかもしれない。大学図書館には高名な研究者の寄贈図書もあり、その先生のものらしき書き込みがあったりする。そうした書き込みまできれいさっぱり消してしまうのは、文化財の消失のようにも思える。

大学図書館の図書への書き込みを自由にしたら、どんなことが起こるだろうか。他の利用者のことを全く考えない、好き勝手な書き込みで埋め尽くされてしまうだろうか。それとも知的交流が起こるような書き込みで溢れるだろうか。はたまた書き込みが全くされず、まっさらなまま利用され続けるだろうか。どんなことになるにせよ、それがその大学の質の一面を表しているように思う。

もっとも、誰のどんな書き込みであろうと、読書時にそれが目に入り、自分の思考の邪魔をされるのは迷惑だ、というのもよくわかる。やっぱり、書き込みをしないというのが図書館の本に対する基本マナーなのであろう。それでも、私は図書館の本の中に素敵な書き込みを見つけ、その書き手を想像するという妄想から逃れられない。

(国際政治経済学部教授 応用ミクロ経済学)

## 「地図」を描く

齊藤 弘平

SAITO Kobei

あなたがはじめて訪れた街を歩いていると仮定します。ロンドンのピカデリー・サーカスで人いきれに流されていたり、ヴェネツィアのリアルト橋を渡りながら行き交う水上バスに目を奪われたり、台北の士林夜市で軒を連ねる屋台からの臭いに圧倒されたり、さまざまな刺激を情報として受け取りながら、あなたはのはじめて訪れる土地の現実を次第に感知していきます。街の人々の歩くスピード、会話する時の音量、昼の陽差しや夜の街灯がもたらす輝度、それらを感覚的に総合して、その土地の雰囲気やリズムをなんとなく理解していくこととなります。しかし、いかんせんはじめての不慣れな土地、当て所もなく歩いているだけでは、宿や目的地に一向にたどり着けません。そんな時、ガイドブックの巻末にある地図を、あるいは現代でしたらスマホを取り出してGoogleマップのアプリを、あなたは開いてみるでしょう。入り組んだ街路のつながり方や、建物同士の位置関係が、その平面には整然と図示されています。あと3ブロック南のほうへ歩けば、宿泊を予約したホテルの看板が見えるはずだと見当をつけることができます。

アルフレッド・コージブスキーという学者の有名な言葉に「地図は現地ではない」というものがあります。あなたが街を歩いている際の感覚的な体験は、あくまでも「現地」に属するものです。そして、その「現地」を縮尺し、整頓し、諸々の伝達可能な記号に置き換えて、たとえその時その場所にいなかったとしても誰しもに理解できるように描画されたものが、「地図」です。「地図」には、ある「現地」がある時点で発する雰囲気やリズムや臭いなどは記録されていません。対称的に、「現地」には、「地図」が有するような万人への伝達可能性はありません。

卒業論文を執筆する、という営為は、大学在籍中の4年間というあなたにとってはじめての「現

地」で学んだこと、感じたこと、判断したりできなかったり、よくわからなくてイライラしたりしたこと、について、その体験の行程を「地図」に記録する仕事だと考えてください。「地図」であるゆえに、他者にその意味内容をきちんと伝達できなくてはなりませんので、描くための約束事はたくさんあります。書式であったり、引用のルールであったり、日本語および外国語の（英米文学科の卒業論文は英語で執筆しなくてはなりません！）文法や用法です。しかし同時に、人文学系の論文（＝「地図」）においては、それらの約束事に従って客観的に最適な道筋を絶対解として提示するというだけでなく、あなたが途中で迷子になったり、迂回したり、ちょっと一息入れたりした過程をまた合わせて記録しておくことが、もしかすると今後それを参照する誰かにとって非常に有益となる場合もあります。あなたという個性が体験した「現地」を、一般的な約束事に従い「地図」として描くことを通して、その時にはじめて他の誰かにも伝達できる「他の誰でもないあなた」という学生の、その思考の、かけがえのない行程が記録され、認知されるというわけです。

わたしが今まで卒業論文を指導した学生たちは、それぞれの「現地」から多種多様なテーマを発見し、熱心に調べたり思考したりという行程を、英語で書かれた卒業論文という「地図」にまとめる仕事に成功しています。なぜ子どもは無垢だと言われるのだろうか？なぜ女性は心身ともに健康な赤ちゃんを産むことを社会・文化に要求されるのだろうか？なぜウイスキーのグラスを傾けることが男らしいと言われるのだろうか？これらの「なぜ？」に導かれながら、（わたしの指導の場合はアメリカの）文学作品や歴史・文化風潮という「現地」に踏み込んでみて、あなたもぜひ「地図」を描いてみましょう。

# 急がば回れ

坂上 裕子  
SAKAGAMI Hiroko

世の中、便利になった。データベースにキーワードを入れれば、関連する本や学术论文を楽に探せる。しかし、それで論文の作成が楽になったかといえば、答えは「否」であろう。

卒論作成の初段階において指導学生からよく聞く訴えには、主に3つのものがある。

1つめは、「関心のあることに関する文献が探しても見つからない」というものだ。どのように文献を探したのかを学生に尋ねると、多くの場合、検索用のデータベースに自分の関心事に関する術語を1つか2つ入れてみただけで、それ以上の検索をしていない。どうやらデータベースに入れる術語が思いつかないのである。そのような場合には、関心事を扱ったテーマが属する領域の書籍や学術雑誌を広く手に取ってみよう。自分の関心に関連のある術語が他にもいろいろと見つかるはずである。下地となる学習なくして、関心に合った文献を見つけることは難しい。労を惜まず、まずはいろいろなものに目を通してみよう。

2つめは、「検索してヒットした論文を読んだけれども、内容が理解できない」というものだ。論文は日常用語ではなく専門用語を用いて書かれているため、出てくる専門用語の意味が分からないと、当然のことながら論文内容も理解できない。専門用語が分からない場合は、各学問分野で出されている辞典を活用しよう。専門用語の意味をおさえた上で同じ論文を繰り返し読んでいくうちに、少しずつ内容が分かってくるはずである。た

だし、論文にも優れたものとそうではないものがある。優れた論文は論理的である、すなわち筋道立っているもので、多少難解であったとしても、何度か読むうちに内容が頭に入ってくる。しかし、筋が通っていない論文は、何度読んでも内容が頭に入っていない。その両者を識別できるようになるためには、ある程度の数の論文を実際に自分で読んでみる必要がある。

最後は、「いろいろな文献を読んでいるうちによく分からなくなった」というものだ。学生の多くは、最初は自分の仮説や考えが正しいと信じ、それに当てはまる記述がないかを探し、確かめながら文献を読む。しかし、複数の文献を読んでいくうちに、自分の信念に合致する考えばかりではないことや、自分に欠けていた視点があることに気づき、そもそも自分は何をしようとしていたのか、と立ち尽くしてしまう。これはしんどいことではあるが、卒論作成においては非常に重要な過程の1つである。そこで踏ん張って様々な考え、物の見方の海に溺れてみると、少しずつ様々な考えが頭の中で整理され、それと同時に自分の考えも相対化され、自身の考えがはっきりと見えてくるからである。

よい卒論を作成するためには「急がば回れ」。大学には便利なデータベースに加え、多くの蔵書がある。両者をうまく活用しながら、じっくりと卒論の作成に取り組んでほしい。

(教育人間科学部准教授 発達心理学)

# フットワークは軽く、かつ着実に

元山 斉  
MOTOYAMA Hiroshi

今回のテーマは「卒論・レポート必勝法」です。実は、自分自身、論文を書く際には、毎回苦勞をしています。苦勞をしている自分なりのアドバイスをしたいと思います。

皆さんはこれまでも大学に入るまでに、さまざまな文章を書いてきたことと思いますが、大学に入って論理的な構成をした長い文章を書くのは初めてかもしれません。

卒論・レポートを書く上で、最初の大きな壁はテーマ決めだと思います。「良いものを書きたい」そのために「良いテーマを選びたい」といろいろと悩まれることと思います。どうか、あまり深刻に悩み過ぎずに、まずは自分が「面白い」と思うテーマを決めて、図書館で関連する本をご覧ください。図書館は知識の宝庫です。新しい世界が開け、もっと面白いテーマも見つかるかもしれません。この時点で、ゼミの教員に相談をしてみても良いかも知れません。ゼミの教員は、皆、これまでの研究生活において、試行錯誤を繰り返した上で研究テーマを決め、資料やデータを注意深く検討した上で、執筆をしてきたベテランたちです。より深い視点・別の視点からの示唆をもらえ、押さえておくべき基本文献を紹介してもらえらると思います。

テーマ選びで一番大事なことは自分が面白いと思うことです。そうすれば、おのずから深い内容の良いものになります。

無事、テーマが決まり、具体的に研究を進める方法を紹介します。研究の進め方、論文の書き方は専門分野によって違いますが、データに基づく問題解決を行う際には PPDAC という考えがあり

ます。この考えは、もともとは品質管理の世界の PDCA(Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Act(改善))サイクルから来ていますが、PPDACは

**Problem(問題)** : どのようなことを調べて明らかにしたいか考える

**Plan(計画)** : 上の問題を調べる上で必要なデータや文献を検討する

**Data(収集)** : データや文献を収集する

**Analysis(分析)** : データを統計的に解析する  
既存の文献を精査する

**Conclusion(結論)** : 分析から導かれる結論を得るというステップから構成されます。

この手順を信じて、肩の力を抜いて、今日から出来るところから執筆を始めてみてください。まずは気軽に書き始めることです。書いたものを修正することは、いつでもできます。推敲を繰り返して、より良いものに近づけていきましょう。

ところで、上のステップは簡単なことと思うかも知れませんが、「言うは易し行うは難し」既存の先行研究を探し出し、データを探し出すことは、慣れないうちは簡単ではないことと思います。そのときに役に立つのが図書館にある資料やデータベースです。使い方は図書館の HP にあります。それでも困ったときはリファレンスカウンターの方に伺いましょう。わかりやすく丁寧に教えて下さります。

最後になりましたが、卒論もレポートも自分自身を高めるつもりで真剣に取り組みましょう。自分なりのこだわりを持って納得のいく内容を仕上げること、それを達成した自信が、みなさんの今後の人生で貴重な財産になると思います。

# プランを立てよう！

酒巻 修也  
SAKAMAKI Naoya

## はじめに

「卒論・レポート必勝法」のエッセイを執筆しようと机に向かってみたものの、なかなか筆が進まない。というのも、私には卒論を書いた経験がない。そこで、バックナンバーでこれまでのエッセイを拝読すると（思いのほかおもしろかった）、文献収集やテーマ設定の方法など、参考になるアドバイスが多い。また、論文の書き方に関する本も、図書館に所蔵されている。論文作成の技法等については、それらの本や、実際に論文を読むことで学んでほしい。

今回は、私の経験から論文作成にあたって重要だと感じている、「プランを立てる」ということについて、話していこう。

### 1. 締切までのプランを立てる

「プランを立てる」と聞いてまず想起されるのは、「計画的に時間を使って論文を書く」ことであろう。卒論には締切があり、また、その完成には多くの資料を精査する必要があるため、計画的に論文を書くことは当然である。しかし、これがなかなか難しい。時間をかけて、じっくりと良い論文を書き上げてほしい。

### 2. 論文のプランを立てる

「時間を計画的に使うことが必勝法だ！」と高らかに宣言してエッセイを終えたなら、私は、残りの教員生活を白い目で見られながら過ごさなければならない…が、問題ない。なぜなら、私が言いたいプランを立てる重要性は、「論文のプランを立てる」ことにあるからだ。

多くの学術論文を読んでいると、論文の構造が、大きく、①問題提起、②本論（結論に至る論証）、③結論から構成されていることがわかる。つまり、

はじめに、何が問題かを明らかにしたうえで、おわりに、その問題についてはこう考えられるという結論が述べられている。そして、問題提起に対しなぜそのような結論に至るかが、その間に論証されている。

この構造からわかることが、いくつかある。ここでは、紙幅の都合上、特に知っておいてほしい次の2点を挙げる。

第一に、ある程度の道筋が見えてからでないと、論文は書けない。たとえば、調べた順に、または教科書等書かれている項目順に書き進めた文章では、何を問題としており、また、それに対する結論が何かを示せていない可能性がある。当然、論証などでできていないであろう。

第二に、論文は、あるテーマについて調べたことを披露する場ではない。資料を精査し、提起した問題に対して自分がどのように考えるかがみえてきたとしよう。ここで、せっかく調べたのだからと論証に必要なことまで書いてしまうと、何を主張したいのか、なぜその結論に至ったのかが伝わらなくなってしまう。

そこで、問題提起に対する結論に至るまでをどのように論証していくかの道筋、つまりプランを立ててから、それに沿って論文を執筆していくと、まとまりのある論文になると思う。

## おわりに

学生にとって、卒論を書くのは根気のいる作業だが、その分、完成した際の喜びも一入のはずである。また、教員にとって、ゼミ生が書いた卒論を読むのは、非常に楽しく嬉しいイベントである。今から追いコンのプランを立てて卒論を待っている。

（法学部准教授 民法）

過去の特集「卒論・レポート必勝法 Part1～5」は図書館 HP からご覧になれます。トップページ左の所属キャンパス図書館をクリックし、のアイコンより、バックナンバー：67号、70号、74号、78号、82号

## アカデミックライティングセンター開設

～「書く力」を実践的に身につける～

青山キャンパス

青山キャンパスにアカデミックライティングセンターが11月中旬より開設されることとなりました。論文やレポートなどの学術的文章について、「書く力」をじっくりと養うための個人指導が受けられます。ライティング指導の専門知識を持つチューターと1対1で、文章力、論理的思考力、アカデミックマナーを実践的に身につけましょう。培ったライティングスキルは、今後さまざまな場面で必ず役に立ちます。ぜひ積極的に利用してください。

場 所：9号館1階

開 室 日：授業実施期間中の月曜～金曜

対 象：本学学部生、大学院生

1セッション45分。予約制（Web予約、来室予約）。

※セッション開始時期や時間帯などの詳細は、  
アカデミックライティングセンターのウェブサイト  
(<https://www.agulin.aoyama.ac.jp/writingcenter/>)を  
ご確認ください。



## 物理・数理お助け部屋

相模原キャンパス



相模原キャンパスでは、2015年度から物理・数理お助け部屋を開室しています。本学物理・数理学科の元教員が、数学や物理に関する疑問・質問・相談に分かりやすく答えます。基礎から応用まで、数学や物理で困ったことや分からないことがあるときには気軽に来室ください。学部学科不問、事前予約も不要です。1対1でじっくり教わるもよし、友達と一緒に指導を受けるもよし。どうぞご利用ください。



場 所：万代記念図書館内 1階点字用ブース

開 室 日：授業実施期間中の毎週水曜・木曜

開室時間：10時～12時／13時～15時

対 象：本学学部生、大学院生

※臨時に開室日時を変更する場合は、  
図書館HPやTwitterでお知らせいたします。

# 読書の秋!

## 大学図書館ファミリーを探そう!

皆さんおなじみの(?)図書館ファミリーが本館(青山キャンパス)・万代記念図書館(相模原キャンパス)のどこかに隠れています(各館6カ所)。ヒントをもとに図書館ファミリーを探し出し、彼らのメッセージ中の一文字をつなぐと、ある言葉になります。このキーワードを図書館備え付けの応募用紙に記入して、応募箱に入れてください。(各館ごとの応募になります。)正解者には抽選で素敵なプレゼントをさしあげます!

応募期間:2017年11月1日(水)~11月30日(木)

### 本館のヒント

- ①日本古典文学全集はどこだったかな?
- ②江戸時代の古地図で調べ物があるんじゃが、どこかな?

けやきさん

- ③1日の始まりはフランスの新聞を読んでから!
- ④卒論のテーマは「カミュ」なの!本を探さなくちゃ!

アイビーちゃん

- ⑤読書の秋、一人窓際でゆっくり好きな小説を読みたいな...
- ⑥僕の読みたい本、青学の図書館に無いみたい。誰か相談にのってくれるかな~

いちようくん

### 万代記念図書館のヒント

- ①本の貸出手続きを自分でできる機械があると聞いたのじゃが、どこにあるのかな?
- ②図書館に新しく入った本を読みたいのう。

- ③授業の合間に映画を観たいな。DVDから選びたいな。
- ④友達と話し合いながら勉強したいけれど、防音の部屋はあるかしら?

- ⑤僕のレベルに合った英語学習用のEnglish Readerを読んでTOEIC対策をするんだ!
- ⑥データベースの使い方分からないことがあるんだけど、誰か教えてくれないかな~

## 本を選ぶ

### POPも描ける!選書ツアー

- 【参加資格】本学所属の学部生・院生 【募集人数】10名  
 【日時】11月22日(水)午後  
 【場所】紀伊國屋書店 新宿本店  
 【応募受付】11月11日(出)まで本館1階貸出・返却カウンター、または万代記念図書館2階レファレンスカウンター

### 学生選書 Weeks

今年も電子ブックから読みたい本を選ぶ企画です。

- 【参加資格】本学所属の学部生、大学院生、教職員  
 【期間】11月1日(水)~12月31日(日)  
 【詳細】図書館ホームページでお知らせ

詳細は図書館ホームページをご参照ください。

### 編集後記

卒論やレポートを執筆するには、まずはテーマを決めます。そしてそのテーマに沿って図書館で資料を集め、取捨選択し、卒論やレポートでの論証の補強材料として使い、結論を導きます。巻頭エッセイも含め、今号の各エッセイにはこれらのステップをどのように乗り越えていくかについて、貴重なヒントが数多く散りばめられています。少しでも皆さんの参考になれば望外の喜びです。(館報編集委員長 竹田憲史)

## リサイクルブックフェア

### 青山キャンパス

- 【開催日時】12月6日(水)~12月12日(火)  
 平日 / 9:30~21:00  
 土曜日 / 9:30~20:30  
 日曜日 / 12:30~18:30  
 【会場】図書館3階グループ学習室B

### 相模原キャンパス

- 【開催日時】12月1日(金)~12月5日(火)  
 9:30~19:30 (但し日曜日は休館)  
 【会場】図書館1階点字用ブース

青山学院スクール・モットー 地の塩、世の光 The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院大学図書館報 “AGULI” 第103号 2017年11月1日発行 表紙写真/青山学院大学写真研究部  
 編集 青山学院大学図書館報編集委員会・大学図書館広報担当 TEL.03-3499-1402 FAX.03-3407-4472  
 発行 青山学院大学図書館 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25 <https://www.agulin.aoyama.ac.jp/>